

Antenna House PDF Driver API インターフェース説明書

目次

ANTENNA HOUSE PDF DRIVER API インターフェース説明書	1
1. 概要	4
2. 動作環境	4
2.1. 対応 OS.....	4
2.2. 必要なライブラリー.....	4
2.3. 必要なソフトウェア.....	4
3. 開発環境	6
3.1. インターフェース.....	6
3.1.1. C++.....	6
3.1.2. .NET Framework.....	6
3.1.3. .NET6.....	6
3.1.4. Java.....	6
3.2. コンパイラ.....	7
3.2.1. C++.....	7
3.2.2. .NET Framework.....	7
3.2.3. .NET6.....	7
3.2.4. Java.....	7
4. クラス	8
4.1. 変換クラス.....	8
4.2. 設定クラス.....	9
4.3. OFFICE アドインオプション設定クラス.....	11
4.4. 例外エラークラス.....	11
4.5. その他.....	11
5. プリンター選択処理	12
5.1. プリンターの選択：SELECTPRINTER の仕様.....	12
5.2. SELECTPRINTER のエラー.....	12
5.3. 選択状態の解放：RELEASEPRINTER.....	13
6. エラーコード一覧	14
6.1. パスワード付きファイルに対するエラーコードについて.....	18
7. PDF DRIVER API の使い方	19
7.1. PDF DRIVER のインストール.....	19
7.1.1. PDF Driver のインストール方法.....	19
7.1.2. PDF Driver のアンインストール方法.....	20

7.2.	モジュールファイルの配置について	21
7.2.1.	開発環境.....	21
7.2.2.	実行環境.....	21
8.	ライセンスファイルについて	22
8.1.	ライセンスファイル名.....	22
8.2.	ライセンスファイルの場所	22
8.3.	正規利用方法	22
8.4.	保守期限と PDF DRIVER API の動作について.....	22
8.5.	ライセンスファイルの入れ替えについて.....	22
8.6.	ライセンスファイルの削除	23
9.	制限事項	24
9.1.	PDF DRIVER API のサーバーサイド使用における制限事項.....	24
9.2.	PDF DRIVER API のその他の制限事項	25
9.3.	PDF DRIVER の制限事項.....	28
9.4.	OFFICE アドイン機能の制限事項.....	31
履歴	33

1. 概要

本書は、Antenna House PDF Driver APIV8.0のインターフェースについての説明書です。

2. 動作環境

2.1. 対応 OS

Microsoft Windows Server 2022 日本語版

Microsoft Windows 11 / 10 日本語版

※ただし、下記の「必要なソフトウェア」に示す各ソフトウェアの動作環境に準じます。

2.2. 必要なライブラリー

Microsoft Visual C++ 2015-2022 再頒布パッケージ ※1

Microsoft .NET Framework 4.6.2以降 ※2

Microsoft .NET Runtime 6 ※3

Java 11 ※4

※1 必須です。

※2 .NET Framework API を利用する場合必要です。

※3 .NET6 API を利用する場合必要です。

※4 Java API を利用する場合必要です。

2.3. 必要なソフトウェア

Antenna House PDF Driver V8.0 ※1

Microsoft Word 2021 / 2019 / 2016 ※2

Microsoft Excel 2021 / 2019 / 2016 ※3

Microsoft PowerPoint 2021 / 2019 / 2016 ※4

ジャストシステム 一太郎 Pro 4 / Pro 5 ※5

- ※1 必須です。
- ※2 Word ファイルを PDF 出力する場合必要です。
- ※3 Excel ファイルを PDF 出力する場合必要です。
- ※4 PowerPoint ファイルを PDF 出力する場合必要です。
- ※5 一太郎ファイルを PDF 出力する場合必要です。
- ※6 Microsoft Office においては、インストールオプション「Visual Basic for Applications」がインストールされている必要があります。
- ※7 PDF Driver API の動作環境は、各アプリケーションの動作環境に準じます。ご利用になるアプリケーションの動作環境をご確認ください。

3. 開発環境

3.1. インターフェース

3.1.1. C++

ネームスペース : PdfDrv

ヘッダーファイル : PdfDrv.h

ライブラリーファイル : PdfDrvAPI80AH.lib、drvselector80AH.lib

DLL ファイル : PdfDrvAPI80AH.dll

lib ファイル、dll ファイルは 32bit 用、64bit 用それぞれにあります。

3.1.2. .NET Framework

ネームスペース : PdfDrvNet_80

DLL ファイル : PdfDrvNet80.dll、PdfDrvAPI80AH.dll

dll ファイルは 32bit 用、64bit 用それぞれにあります。

3.1.3. .NET6

ネームスペース : PdfDrvNet_80

DLL ファイル : PdfDrvNet80n6.dll、Ijwhost.dll、PdfDrvAPI80AH.dll

dll ファイルは 32bit 用、64bit 用それぞれにあります。

3.1.4. Java

パッケージ名 : jp.co.antennahouse.pdfdriver.pdfdrv

jar ファイル : PdfDrvAPI80.jar

jar ファイルは 32bit と 64bit で共通です。

3.2. コンパイラ

3.2.1. C++

Microsoft Visual Studio 2015 でビルドされています。

呼び出し側のプログラムは、互換性あるコンパイラ使用してください。

3.2.2. .NET Framework

Microsoft Visual Studio 2015 でビルドされています。

呼び出し側のプログラムは、互換性あるコンパイラ使用してください。

3.2.3. .NET6

Microsoft Visual Studio 2022 でビルドされています。

呼び出し側のプログラムは、互換性あるコンパイラ使用してください。

3.2.4. Java

Adoptium OpenJDK 11 でビルドされています。

呼び出し側のプログラムは、互換性あるコンパイラ使用してください。

4. クラス

ここでは、PDF Driver API が持つクラスの概要をご紹介します。各クラスの詳細につきましては、html形式のAPI リファレンスをご参照ください。

4.1. 変換クラス

Antenna House PDF Driver(PDF Driver)を利用して Word、Excel、PowerPoint、一太郎、テキストの各形式のファイルを PDF へ変換するクラスです。

内容	インターフェース	クラス名
変換	C++	PtlDrvConvert
	.NET Framework / .NET6	
	Java	

4.2. 設定クラス

設定に対する操作を行うクラスです。

内容	インターフェース	クラス名
設定全般の操作 PtIDrvvert クラスで使⽤します	C++	PtIParamDriverSettings
	.NET Framework / .NET6	
	Java	
「一般」設定の操作 PtIParamDriverSettings クラス で使⽤します	C++	PtIParamCommonSettings
	.NET Framework / .NET6	
	Java	
「PDF バージョン」設定の操作 PtIParamDriverSettings クラス で使⽤します	C++	PtIParamPDFVersionSettings
	.NET Framework / .NET6	
	Java	
「色」設定の操作 PtIParamDriverSettings クラス で使⽤します	C++	PtIParamColorSettings
	.NET Framework / .NET6	
	Java	
「圧縮」設定の操作 PtIParamDriverSettings クラス で使⽤します	C++	PtIParamCompressSettings
	.NET Framework / .NET6	
	Java	
「フォント」設定の操作 PtIParamDriverSettings クラス で使⽤します	C++	PtIParamFontSettings3
	.NET Framework / .NET6	PtIParamFontSettings
	Java	PtIParamFontSettings
「セキュリティ」設定の操作 PtIParamDriverSettings クラス で使⽤します	C++	PtIParamSecuritySettings
	.NET Framework / .NET6	
	Java	
「透かし」設定の操作 PtIParamDriverSettings クラス で使⽤します	C++	PtIParamWaterMarkSettings
	.NET Framework / .NET6	
	Java	
「開き方」設定の操作	C++	PtIParamOpenModeSettings

PtIPParamDriverSettings クラス で使します	.NET Framework / .NET6	
	Java	
「情報」設定の操作 PtIPParamDriverSettings クラス で使します	C++	PtIPParamInformationSettings
	.NET Framework / .NET6	
	Java	

4.3. Office アドインオプション設定クラス

※OEM ライセンスでは、Office アドインはオプション機能です。

内容	インターフェース	クラス名
Word アドインオプションの設定	C++	PtiParamWordAddinSetting
	.NET Framework / .NET6	
	Java	
Excel アドインオプションの設定	C++	PtiParamExcelAddinSetting
	.NET Framework / .NET6	
	Java	
PowerPoint アドインオプションの設定	C++	PtiParamPPTAddinSetting
	.NET Framework / .NET6	
	Java	

4.4. 例外エラークラス

内容	インターフェース	クラス名
例外処理	C++	PtIDrvException
	.NET Framework / .NET6	
	Java	
エラーコード	C++	PtIDrvErrorCode
	.NET Framework / .NET6	PtIDrvErrorCode
	Java	ErrorCode

4.5. その他

内容	インターフェース	クラス名
文字列を扱うクラスです。 Windows の UNICODE 文字列を保持しますが、マルチバイト文字列との相互運用が可能です。 C++のみのクラスです。.NET、Java にはありません。	C++	PtIDrvString

5. プリンター選択処理

PHDrvConvert クラスのプリンター選択関数「SelectPrinter」は、変換処理をどのプリンターに対して行うのかを決める関数です。選択対象は、モデル名が「Antenna House PDF Driver 8.0」であるプリンターです。

複数のスレッドあるいは複数のプロセスから同時に PDF Driver V8.0 で印刷処理をさせる場合、プログラムのコードでは、印刷実行前に「SelectPrinter」をコールするようにしてください。

5.1. プリンターの選択：SelectPrinter の仕様

(1) SelectPrinter(NULL)

引数が NULL の場合は、プリンター名「Antenna House PDF Driver 8.0」を選択します。

(2) SelectPrinter(L"")

引数が空文字列の場合は、SelectPrinter 側で処理が可能な状態にあるプリンターを選択します。プリンターが見つからない場合は、エラーになります。プリンターの選択に成功した場合は、「GetSelectedPrinter」によりプリンター名を取得することができます。

(3) SelectPrinter("[プリンター名]")

引数に名称が指定されている場合、すでにその名称のプリンターが存在するときにはそれを選択状態にします。存在しないときには、SelectPrinter 側でプリンターを作成します。

プログラム側でプリンターを作成する場合は、プログラム自体、あるいは、プログラムを実行するユーザーに、プリンターが作成可能な権限が必要となります。

(4) プログラム側で SelectPrinter の呼び出しが行われなかった場合

「SelectPrinter(L"")」と同じ仕様で動作します。

プリンターが「選択状態」になると、他のプロセスやスレッドからはそのプリンターを PDF Driver API では使用できなくなりますが、PDF Driver API 以外からは使用できます。

PDF Driver API からプリンターを利用するプログラムが動作している間は、PDF Driver API 以外からそのプリンターが使用されないようにしてください。

5.2. SelectPrinter のエラー

SelectPrinter のエラーの種類については、「[エラーコード一覧](#)」を参照してください。

※ エラーコード「4」（選択したプリンターは他のスレッドで使用）の場合の対処方法

SelectPrinter が「4」を返す場合は、モデル名「Antenna House PDF Driver 8.0」のプリンターの複製を増やし、再度試行してください。

5.3. 選択状態の解放：ReleasePrinter

プログラムで使用が終わったプリンターは、「ReleasePrinter」で選択状態を解放します。
「ReleasePrinter」は、デストラクタで呼ばれるよう設計されています。
「SelectPrinter」が作成したプリンターは、自動的に削除されます。

6. エラーコード一覧

コード	内容	参考：エラーの対処
0	正常	
1	無効な操作	
2	指定したプリンターは存在しない	
3	メモリ不足またはバッファ不足	
4	選択したプリンターは他のスレッドで使用 中	モデル名「Antenna House PDF Driver 8.0」のプリンターの複製を追加してくだ さい。
5	プリンター名として使用できない名前	
6	レジストリーにアクセスできない	
7	コールバック関数で例外が発生	
8	プリンタードライバーがインストールされ ていない	
9	名前を指定されたプリンターが存在しない	
10	プリンターの作成に失敗	
11	プリンターの削除に失敗	
12	API の Memory Mapped File にアクセス できない	
13	Win32API の CreateMutex に関連するエ ラー	
14	プリンターを開けない	
15	プリンターの情報や設定の読み書きがで きない	
16	Win32API の EnumPrinter に関連するエ ラー	
17	設定ファイルが読み込めない	
18	指定された名前のファイルは存在しない	
19	指定されたファイルが開けない	
20	COM に関連するエラー	

21	非対応のファイル	
50	設定において PDF/X が指定されているが文書タイトルの設定が無い	
51	設定において仕上がりサイズと裁ち落としサイズの大小関係が不正	
100	設定ファイルが見つからない	
101	設定ファイルのフォーマットエラー	
102	設定ファイルに書き込みできない	
103	設定内容を PDF Driver に送ることができない	
109	設定ファイル編集におけるその他のエラー	
150	入力ファイルを読み込めない	
151	入力ファイルにパスワードが設定されている	
152	非対応のファイル形式	
153	PDF への変換に失敗	複数の印刷処理を同時に実行している場合、同じファイルを同時に印刷しようとしている可能性があります。
154	PDF の書き出しができない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定した出力先フォルダーが存在しない場合に発生します。 ・ 出力先にすでに同一名の PDF ファイルが存在し開いている場合に発生します。 ・ 複数の印刷処理を同時に実行している場合、同名ファイルで同時に出力しようとしている可能性があります。
155	COM コントロールの呼び出しに失敗	
156	ページ数の取得に失敗	
157	入力ファイルにデータが存在しない	
158	プリンターの変更ができない	
160	パラメータエラー	
161	Microsoft Office アドインのロードに失敗	
162	PDF Driver のバージョンエラー	

163	Microsoft Office アプリケーションの COM の登録が見つからない	
164	ICC ファイルが存在しない	
165	動的にロードされる DLL が存在しない	
166	出力フォルダーが存在しない	
181	評価版ライセンスの有効期限切れ	
182	ライセンスファイルが見つからない	
183	PDF Driver が使用できない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の印刷処理を同時に実行している場合に発生する可能性があります。モデル名「Antenna House PDF Driver 8.0」のプリンターの複製を追加してみてください。 ・ 変換関数を呼び出す前に「SelectPrinter」を呼び出してプリンターの空き状況を確認し、リトライあるいはエラー処理をするなどの対応を検討してください。
184	機能は実装されていない	
185	印刷するアプリケーションが見つからない	
190	その他のエラー	
200	Excel 処理中のエラー	
201	Excel インスタンスの作成に失敗	
202	Excel で入力ファイルを開けなかった	
204	Excel で印刷に失敗	
205	Excel でプリンターを選択に失敗	
206	Excel で印刷設定に失敗	
299	Excel の原因不明のエラー	
300	Word 処理中のエラー	
301	Word インスタンスの作成に失敗	
302	Word で入力ファイルを開けなかった	
304	Word で印刷に失敗	
305	Word でプリンターを選択に失敗	

306	Word で印刷設定に失敗	
307	Word でバックグラウンド印刷を無効にする設定に失敗	
399	Word の原因不明のエラー	
400	PowerPoint 処理中のエラー	
401	PowerPoint のインスタンス作成または接続に失敗	
402	PowerPoint で入力ファイルを開けなかった	
404	PowerPoint で印刷に失敗	
405	PowerPoint でプリンターの選択に失敗	
406	PowerPoint で印刷設定に失敗	
407	PowerPoint でバックグラウンド印刷を無効にする設定に失敗	
499	PowerPoint の原因不明のエラー	
500	一太郎処理中のエラー	
501	一太郎インスタンスの作成に失敗	
502	一太郎で入力ファイルを開けなかった	「一太郎」がすでに起動している場合に発生します。「一太郎」を終了後、PDF Driver API のプログラムを実行してください。
504	一太郎で印刷に失敗	
505	一太郎でプリンターの選択に失敗	
506	一太郎で印刷設定に失敗	
599	一太郎の原因不明のエラー	

- エラーコードは PtiDrvException クラスの「getErrorCode()」(C++/Java の場合) で取得できます。 .NET Framework / .NET6 の場合は、 PtiDrvException クラスの「ErrorCode」プロパティです。
- エラーメッセージは PtiDrvException クラスの「getErrorMessageJP()」(C++/Java の場合) で取得できます。 .NET Framework / .NET6 の場合は、 PtiDrvException クラスの「ErrorMessageJP」プロパティです。

6.1. パスワード付きファイルに対するエラーコードについて

Word、Excel、PowerPoint の読み取りパスワード、書き込みパスワードが付いたファイルに対する動作は、通常変換関数 (convertFile) とアドイン変換関数 (convertFileAddin) では以下のように異なります。

拡張子	パスワード種類	convertFile	convertFileAddin
doc	読み取り	エラーコード「151」	エラーコード「151」
doc	書き込み	変換可	変換可
docx	読み取り	エラーコード「151」	エラーコード「151」
docx	書き込み	変換可	変換可
xls	読み取り	エラーコード「153」	エラーコード「153」
xls	書き込み	変換可	エラーコード「153」
xlsx	読み取り	エラーコード「151」	エラーコード「151」
xlsx	書き込み	変換可	エラーコード「153」
ppt	読み取り	エラーコード「153」	エラーコード「153」
ppt	書き込み	エラーコード「153」	エラーコード「153」
pptx	読み取り	エラーコード「151」	エラーコード「151」
pptx	書き込み	エラーコード「153」	エラーコード「153」

※OEM ライセンスでは、Office アドイン (convertFileAddin) はオプション機能です。

7. PDF Driver API の使い方

7.1. PDF Driver のインストール

PDF Driver API を利用するプログラムの開発環境あるいは実行環境には、PDF Driver のインストールが必要です。

7.1.1. PDF Driver のインストール方法

7.1.1.1. インストールを実行する前の注意事項

- インストールは、管理者権限を持つユーザーがログインしている環境で行ってください。
- インストールを行う環境において、すべての印刷が終了していることを確認してください。
- インストールを行う環境において、すべてのアプリケーションが終了していることを確認してください。

7.1.1.2. インストール手順

- (1) PDFDriver_setup フォルダにある AHPDFDriver80_setup.exe をダブルクリックするなどして起動します。
- (2) ダイアログが表示されますので、指示にしたがってインストールを実行します。
- (3) インストールの途中で、Microsoft Visual C++ 2015-2022 再頒布パッケージのインストーラが起動する場合があります。起動した場合は、指示にしたがって必ず再頒布パッケージをセットアップしてください。
- (4) インストールが完了すると、「コントロールパネル」の「デバイスとプリンター」に「Antenna House PDF Driver 8.0」のプリンターアイコンが表示されます。
- (5) デフォルトのインストール先フォルダパスは下記です。

{システムドライブ}:¥Program Files¥Antenna House¥PDF Driver 8.0

- ※ インストール終了後、システムの再起動が促される場合があります。

7.1.2. PDF Driver のアンインストール方法

7.1.2.1. アンインストールを実行する前の注意事項

- アンインストールは、管理者権限を持つユーザーがログインしている環境で行ってください。
- アンインストールを行う環境において、すべての印刷が終了していることを確認してください。
- アンインストールを行う環境において、すべてのアプリケーションが終了していることを確認してください。

7.1.2.2. アンインストール手順

- (1) 「コントロールパネル」の「プログラム」 - 「プログラムと機能」を開きます。
- (2) プログラム一覧にある「Antenna House PDF Driver V7.5」を選択します。
- (3) 「アンインストール」をクリックし、指示にしたがってアンインストールを実行します。

※ アンインストール終了後、システムの再起動が必要となる場合があります。

7.2. モジュールファイルの配置について

PDF Driver API のモジュールファイルやヘッダーファイルは「PDFDriverAPI」フォルダにあります。

7.2.1. 開発環境

PDFDriverAPI フォルダ内の以下のサブフォルダを任意の場所に配置してください。

bin32 : C++ API、.NET API 各 32bit 用モジュールファイル

bin64 : C++ API、.NET API 各 64bit 用モジュールファイル

Java : Java API 32bit/64bit 用モジュールファイル

lib32 : C++ API 32bit 用 lib ファイル

lib64 : C++ API 64bit 用 lib ファイル

Include : C++ API ヘッダーファイル

7.2.2. 実行環境

PDF Driver API のモジュールファイルは、

- ・ プログラムの実行ファイルと同じ場所に配置

あるいは、

- ・ 実行ファイルが参照できる場所に配置

してください。

プログラムの開発言語により必要なモジュールファイルは異なります。dll ファイル名あるいは jar ファイル名については、「[インターフェース](#)」をご参照ください。

8. ライセンスファイルについて

8.1. ライセンスファイル名

ファイル名 : pdalic.dat

8.2. ライセンスファイルの場所

PDF Driver V8.0 のインストールフォルダ\lic

8.3. 正規利用方法

ライセンスファイルは、PDF Driver のインストーラによりインストールされます。

インストールされるライセンスファイルは、インストール後 30 日間有効な評価用ライセンスです。

製品ご購入後、弊社からライセンスファイルを送付します。このライセンスファイルに入れ替えることにより、正規利用できるようになります。

8.4. 保守期限と PDF Driver API の動作について

ライセンスファイルには、保守契約期間情報があります。

保守契約が有効である間にリリースされた改訂版については、アップデートしてご利用いただけます。

保守期間終了後も、それまでと同様にご利用いただけます。

ただし、保守契約終了後にリリースされた改訂版については、アップデートしてご使用になると PDF Driver API は評価版として動作します。このため、出力される PDF のページには評価用透かし文字列が挿入されます。

最新の改訂版を正規利用するには、保守契約の更新をご検討ください。

8.5. ライセンスファイルの入れ替えについて

評価版から正規版に移行する場合や保守契約を更新した場合、弊社から新しい正規のライセンスファイルを送付します。

新しいライセンスファイルに入れ替え、ご利用ください。

ライセンスファイルの入れ替えは、PDF Driver API および PDF Driver を利用するプログラムが実行されていないときに行ってください。

ファイル入れ替え後にコンピュータの再起動は必要ありません。

8.6. ライセンスファイルの削除

PDF Driver のアンインストーラでは、PDF Driver API 用のライセンスファイルは削除しません。

9. 制限事項

9.1. PDF Driver API のサーバーサイド使用における制限事項

- (1) Microsoft は、Microsoft Office（以下 Office）のオートメーションをサーバーサイドで使用する
ことについての技術サポートを行っていません。また、ライセンスを持たないワークステーション
に対しサーバーサイドで Office サービスを提供することも許可していません。

参考情報：[Office のサーバーサイド オートメーションについて](#)

PDF Driver API は Office のオートメーションを利用した API です。したがって、PDF Driver API
を使用し Word/Excel/PowerPoint 各ファイルの PDF 出力を行うプログラムをサーバーサイドで
運用する場合には、Office のライセンス規約にしたがわなければなりません。このような場合、弊
社の PDF Driver API のライセンスとは別に、お客様が構築されようとしているサーバー（サービ
ス）を利用するすべてのユーザー（クライアント）が Office のライセンスを持つ必要があります。
このような使用方法をお考えの場合には、Office のライセンスについてもご注意ください。Office
のライセンスについては Microsoft にお問い合わせください。なお、Office のライセンス違反等
の問題が発生いたしましても当社は一切関知いたしません。

- (2) PDF Driver API を利用したプログラムの実行ファイルと、PDF Driver API が印刷を行うアプリケ
ーション（Microsoft Office、ジャストシステム 一太郎）は同じセッションで動作させる必要が
あります。

9.2. PDF Driver API のその他の制限事項

- (1) PDF Driver API を利用して Microsoft Word / Excel / PowerPoint、ジャストシステム 一太郎の各ファイルの PDF 出力処理を行う場合、これらのアプリケーションの COM(Component Object Model) を使用します。アプリケーションが更新されたりバージョンアップされたとき、出力 PDF の内容が更新／バージョンアップ前の結果と異なったり、COM の動作が変わり PDF Driver API の動作に影響が出るなどがあります。
- (2) PDF Driver API は印刷アプリケーション (Word / Excel / PowerPoint / 一太郎) の動作に依存します。このため、停止しないで動作することは保証していません。停止が問題になるようなサービス等では、上位システムでエラーや停止時の対処また負荷分散などの機能を組み込まれる事を推奨いたします。
- (3) PDF Driver API の動作環境は、印刷アプリケーション (Word / Excel / PowerPoint / 一太郎) の動作環境に準じます。ご利用になる印刷アプリケーションの動作環境をご確認ください。
- (4) PDF Driver API V8.0 は、PDF Driver V7.5 以前の PDF Driver を制御することはできません。
- (5) PDF Driver V8.0 は、PDF Driver API V7.5 以前の API では制御できません。
- (6) PDF Driver API を利用して印刷を行うプログラムが動作している環境では、PDF Driver API 以外から PDF Driver が使用されないようにしてください。
- (7) PDF Driver API を利用して印刷を行うプログラムが、ひとつのユーザー環境で複数同時に動作する場合は、あらかじめ、モデル名が「Antenna House PDF Driver 8.0」であるプリンターを複数個用意してください。製品付属の「プリンターの追加と削除ツール」でプリンターの複製を作成することができます。
- (8) PDF Driver API を利用した複数スレッド構成のプログラムにおいて各スレッドで印刷を行う場合、あらかじめ、モデル名が「Antenna House PDF Driver 8.0」であるプリンターを複数個用意してください。製品付属の「プリンターの追加と削除ツール」でプリンターの複製を作成することができます。
- (9) PDF Driver API を使用したプログラムを設計するさい、1つのスレッドから同時に2つの印刷処理が行われないよう制御する必要があります。1つのスレッド内で2つ以上同時に印刷を行うと、プリンタードライバーは正常に動作しません。
- (10) Microsoft Office アドインを使用した PDF 出力は Microsoft Office Word/Excel/PowerPoint 文書のみが対象となります。
- (11) PDF 出力中に元アプリケーションがエラーとなった場合、PDF の生成は中止されます。
- (12) PDF Driver API を使用したプログラムにおいて、セクションが複数存在する Word ファイルの PDF 出力では、印刷ページ範囲指定や 1 ページ単位での PDF 出力が正常に動作しない場合があります。
- (13) Excel ファイルにおいて、「ページ設定」の「解像度」がシートごとに異なる場合は、PDF Driver API が全シートのなかでもっとも大きな解像度の値に再設定して変換処理を行います。このため、シー

トの内容によっては、ページレイアウトがオリジナルと異なる場合があります。

- (14)Excel ファイルにおいて「ページ設定」の「解像度」が PDF Driver で扱うことができない値の場合、PDF Driver API は印刷エラーを回避するために PDF Driver が持つ解像度のいちばん近い値に設定します。このためシートの内容によっては、ページレイアウトがオリジナルと異なる場合があります。
- (15)Excel ファイルにおいて、Open や Close などのイベントに対してマクロが設定されているとき、マクロでメッセージが表示されたり、エラーによって Excel アプリケーションからメッセージが表示されるような場合、PDF Driver API の変換処理は中断されます。
- (16)PDF Driver API の処理において、一太郎ファイルが複数シートを持つ場合は、カレントシート（＝開いたときに最前面にあるシート）のみを PDF に出力します。
- (17)PDF Driver API の処理において、一太郎ファイルのカレントシートが Excel 形式の場合、Excel ファイルが複数シートを持ちシートの解像度が異なるなどして印刷ジョブが分かれるケースでは、出力される PDF が複数に分かれます。
出力される PDF ファイル名の例：
 - test.pdf
 - test.pdf.pdf
 - test.pdf.pdf.pdf
- (18)PDF Driver API の処理において、一太郎ファイルのカレントシートが PowerPoint 形式の場合、印刷時に PowerPoint 画面が前面に表示されます。
- (19)PDF Driver API の処理において、一太郎ファイルのカレントシートが Word 形式の場合、1 ページ目が出力されない場合があります。
- (20)PDF Driver API の処理において、一太郎ファイルのカレントシートが Word 形式の場合、2 ページ目以降の数ページだけ出力される場合があります。
- (21)PDF Driver API の処理において、動作環境のアプリケーションが「一太郎」のバージョンによっては、印刷時に一太郎の画面が前面に表示されます。
- (22)PowerPoint においてスライドサイズを「ワイド画面」で作成したファイルに対しては、PDF Driver API で指定された「倍率」は無効となります。PowerPoint が印刷オプション「用紙に合わせて拡大／縮小」を ON にした状態で印刷を行うためです。
- (23)PDF Driver API のアドイン変換関数を使用する場合、1 ページ（1 シート／1 スライド）ごと PDF 出力を行うオプションは使用できません。
- (24)テキスト形式ファイルを PDF 変換する場合、文字コードは Word が判別しています。使用されている文字コードやテキスト内容によっては出力結果が文字化けする場合があります。
- (25)PDF Driver API の処理において、Excel ファイルの非表示シートは PDF 出力されません。
- (26)PDF Driver API の通常出力処理において、PowerPoint ファイルの非表示スライドは出力されませ

ん。アドイン変換処理の場合、非表示スライドは PDF 出力対象となります。

※OEM ライセンスでは、Office アドインはオプション機能です。

9.3. PDF Driver の制限事項

- (1) PDF Driver の出力結果は、オペレーティングシステム (OS) の種類やバージョンや更新、印刷を行うアプリケーションの更新やバージョンアップにより、更新／バージョンアップ前の結果とは異なる場合があります。
- (2) Adobe Acrobat などの PDF ビューアから PDF Driver を指定し印刷する動作、および印刷結果である PDF ファイルについては保証されません。
- (3) PDF Driver は印刷アプリケーションの動作に依存します。このため、停止しないで動作することは保証していません。停止が問題になるようなサービス等では、上位システムでエラーや停止時の対処また負荷分散などの機能を組み込まれる事を推奨いたします。
- (4) 印刷処理速度や消費メモリ、出力結果の PDF などについて、特定の性能や品質を保証するものではありません。Adobe Acrobat や Adobe Acrobat の「Adobe PDF」を含む他社製品の PDF 生成ソフトウェアと同等の品質や性能を保証するものではありません。
- (5) PDF Driver はネットワークプリンターとしてご利用いただくことはできません。
- (6) 1つのスレッドから同時に2つ以上の印刷を行うようなしくみのアプリケーションにおいて2つ以上のファイルを同時に PDF Driver に対して印刷すると PDF Driver は正しく動作しません。
- (7) 保存ダイアログで「キャンセル」を行った場合、PDF Driver は印刷処理を続行します。最後に PDF ファイルを出力しないことで「キャンセル」とする動作仕様となっています。このため、印刷内容によりキャンセルされるまでに時間がかかる場合があります。
- (8) PDF Driver V8.0 で印刷中にエラーが発生し印刷が中止された場合、PDF Driver V8.0 用の一時フォルダ「C:\Users\ ログインユーザー名\AppData\Local\Temp\AHPD80_temp」に拡張子「.tmp」のファイルが残る場合があります。
- (9) Windows のプリンター一覧に表示されるプリンター名を変更しないでください。一部の機能が正常に動作しなくなるおそれがあります。
- (10) PDF Driver を使用した場合に作成可能な PDF バージョンは、PDF1.3～PDF1.7と PDF2.0 です。
- (11) 縦書きや文字が回転されている場合、フォントを埋め込む設定で印刷を行ってください。PDF にフォントが埋め込まれていないとき、文字が元文書とは異なる方向に回転したり、表示位置がずれる場合があります。
- (12) 縦書き文字の出力対応は、MS ゴシックと Arial Unicode MS を基準としています。
- (13) 対応フォントは、True Type、Open Type、Type1 フォントです。Windows で使用可能なフォント以外については動作保証されません。また、フォントの仕様に沿っていないフォントについては動作保証されません。
- (14) Open Type Font では、フォントによって縦書き記号が回転する場合があります。
- (15) Open Type Font をフォント作成ツール「FontForge」で True Type Font に変換したフォントは正しく変換されません。

- (16)透過画像や図形が含まれているとき、出力された PDF では黒く塗りつぶされた表示になる場合があります。
- (17)透過画像や図形が含まれているとき、PDF/A や PDF/X 設定時に PDF が出力されない、あるいは、ファイルサイズが 0KB である PDF ファイルが残る場合があります。
- (18)画像や図形のグラデーションやパターンが元文書の通りに変換されない場合があります。
- (19)Excel ファイルにおいて、「ページ設定」の印刷品質（解像度）設定値の変更を行った場合、出力される PDF ファイルの結果が印刷プレビューと異なり、行やページが増減する場合があります。PDF Driver で出力する場合、あらかじめ、PDF Driver を選択した状態でシートのレイアウトを行ってください。
- (20)プリンターが出力するときのピクセル数は、「用紙サイズ（インチ換算）×解像度」で決まります。この値が非常に大きくなる設定のときに、印刷が行われず PDF ファイルが出力されない場合があります。そのような場合は、用紙サイズを小さくするか、あるいは、解像度を低い値に設定してください。設定値の目安は、「用紙サイズ（縦）×解像度」あるいは「用紙サイズ（横）×解像度」が 16bit の上限である「65535」より小さくなる値です。（参考：3600 dpi なら約 460mm、600 dpi なら約 2750mm が上限値となります）
- (21)PDF Driver は、Modern UI に対応していません。Modern UI を持つソフトウェアから印刷を行った場合、ユーザーインターフェースが期待される動作をせず、ファイル保存ダイアログはデスクトップ上に表示されます。
- (22)PDF Driver は、Windows のサービス（Windows サービス、Internet Information Service など）での利用において、外字出力には対応していません。
- (23)透かしの配置を最背面に設定した場合、印刷を行うアプリケーションによっては、透かしが他のデータの背面に配置され見えない状態になることがあります。
- (24)透かし文字列のフォントとして「Roman」など fon 形式フォントを選択した場合、PDF 出力に失敗し、PDF が出力されない、もしくは 0 バイトの PDF ファイルが残ります。
- (25)PDF Driver は印刷ジョブ名を PDF ファイル名としています。Windows においてファイル名に使用できない 9 種類の記号 ¥ / : * ? “ < > | が印刷ジョブ名に含まれている場合、PDF Driver はこれらの記号を「_」（0x5F）に置換し PDF ファイル名とします。
- (26)PDF Driver は印刷ジョブ名を PDF ファイル名としています。印刷ジョブ名に制御コード（0x01～0x1F）が含まれる場合、これを半角スペースに置換し PDF ファイル名とします。
- (27)グレースケールあるいはモノクロ変換設定でかつ PDF ファイルを透かしとして指定している場合、透かし部分はグレースケールおよびモノクロ変換は行われません。
- (28)Web フォントを使用した Web ページの PDF 出力には対応していません。
- (29)Windows のバリエーションフォントには対応していません。
- (30)設定オプション「文中の URL にリンクをつける」について、URL 文字列内に改行が存在したり、印刷を行うアプリケーションの仕様により印刷データとして URL アドレスの終端までをひとまとまり

の文字列として扱われていない場合に、正しくリンク設定が行われません。

- (31)PDF ファイルを「透かし」とする場合、PDF バージョンは「PDF のバージョン」で指定する PDF バージョンと同一、もしくはそれ以下の PDF バージョンのファイルを指定してください。
- (32)「PDF のバージョン」に「PDF2.0」を指定したとき、「透かし」として PDF を指定する場合は PDF2.0 のファイルを使用してください。
- (33)「PDF のバージョン」に「PDF/A-2b」を指定しカラープロファイルが「CMYK」、かつ「圧縮」タブで「JPEG2000」を指定している場合、JPEG2000 ではなく JPEG 圧縮が行われます。カラープロファイルが「RGB」の場合は JPEG2000 圧縮が行われます。
- (34)Word と Excel において、ファイルの用紙サイズ設定が「Letter」であるときに「A4」のページサイズで PDF 出力される場合があります。Word/Excel のオプション「詳細設定」において、「A4 または 8.5 x 11 インチの用紙サイズに合わせて内容を調整する」という設定が有効であるとき A4 サイズとなります。Letter サイズで PDF 出力する場合はこの設定を無効にしてください。
- (35)PowerPoint ファイルのスライドの印刷の向きが「横」の場合、印刷設定の「用紙設定」で「サイズ指定」したとき、PDF ではページサイズの幅と高さが入れ替わった大きさになります。

9.4. Office アドイン機能の制限事項

- (1) Word 文書において「変更履歴の記録」が付与されている場合、見出しの PDF しおりへの変換やハイパーリンクの変換などが正しく処理されない場合があります。その場合、Word 文書において変更履歴を「承諾」する処理を行い保存した、変更履歴を持たないファイルにした後、アドイン変換を行ってください。

- (2) PDF のリンクとして出力されるハイパーリンクは以下の種類です。
 - ・文書内の別ページへ移動するリンク
 - ・URL へのリンク
 - ・電子メールアドレス

- (3) 文書内を移動するリンク、URL リンク以外のハイパーリンクについては、リンク情報が正しく出力されない場合があります。

- (4) 以下のようなハイパーリンクを含む文書を PDF 出力すると、ハイパーリンクの指定範囲 (=リンク枠の位置) が不正になることがあります。
 - ・改行を含む文字列にハイパーリンクの指定がある場合
 - ・縦書き文書内でハイパーリンクを指定した場合
 - ・ハイパーリンクを付加した Word アートや図形に「折り返しの種類と配置」機能等を加えた場合
 - ・HTML のブラウザでの表示結果を Word に貼付した場合
 - ・Word 文書内の画像やオートシェイプに設定されたハイパーリンク

- (5) Excel ファイルのシートにおいて印刷範囲が設定されている場合は、リンクの出力やコメントの注釈を作成することができません。該当するファイルの場合は、アドイン出力開始時に警告メッセージが表示されます。

- (6) Excel ファイルのシートにおいてヘッダに印刷タイトルとして「行」「列」タイトルが指定されている場合、リンクの出力やコメントの注釈を作成することができません。該当するファイルの場合は、アドイン出力開始時に警告メッセージが表示されます。

- (7) Excel ファイルにおいて保護シートが存在する場合は、リンクの出力やコメントの注釈を作成することができません。該当するファイルの場合は、アドイン出力開始時に警告メッセージが表示され

ます。

- (8) Excel ファイルにダイアログシートが含まれている場合、ダイアログシートより後ろのシートに対しては、しおりやリンクの出力、コメントの注釈の作成はできません。該当するファイルの場合は、アドイン出力開始時に警告メッセージが表示されます。
- (9) 印刷設定の PDF バージョンが PDF/A あるいは PDF/X のとき、「コメントをノート注釈に変換する」設定でアドイン変換を実行した場合は、印刷途中で失敗するため PDF ファイルが出力されません。
- (10) 印刷設定の PDF バージョンが PDF/A のとき、「元の Word/Excel/PowerPoint ファイルを添付する」設定でアドイン変換を実行した場合は、印刷途中で失敗するため PDF ファイルが出力されません。
- (11) 印刷設定の PDF バージョンが PDF/X のとき、「元の Word/Excel/PowerPoint ファイルを添付する」、「リンクを出力する」、「相互参照と目次をリンクに変換する」、「脚注をリンクに変換する」設定でアドイン変換を実行した場合は、出力される PDF ファイルは PDF/X の仕様の範囲外となります。
- (12) PowerPoint アドイン変換において、表の中の文字列に設定されたハイパーリンクを PDF のリンク注釈として正しく出力できません。
- (13) Word 文書上に隠し文字が存在する場合、しおりやリンクは作成されません。
- (14) Word 文書において、図形内の見出しはしおりに変換されません。
- (15) Excel の HYPERLINK 関数によるリンクは PDF のリンクに変換されません。

履歴

日付	内容
2022.10.6	・初版
2023.3.28	・「5.エラーコード一覧」のエラーコードを修正しました。 ・「8.3.PDF Driver の制限事項」に「(32)」項を追記しました。
2023.4.28	・OEM ライセンスについての注記を追記しました。OEM ライセンスでは、Office アドインはオプション機能です。
2023.11.15	・「2.1.対応 OS」に注意書き「※」を追加しました。 ・「2.3.必要なソフトウェア」に「※7」を追加しました。 ・「5.プリンター選択処理」項を追加しました。 ・「6.エラーコード一覧」の表に「参考：エラーの対処」列を追加しました。 ・「9.2.PDF Driver API のそのほかの制限事項」を修正しました。 ・「9.3.PDF Driver の制限事項」を修正しました。
2024.3.13	・「2.1.対応 OS」を修正しました。 ・「6.1.パスワード付きファイルに対するエラーコードについて」を修正しました。
2024.3.27	・「9.4.Office アドイン機能の制限事項」を追加しました。

Antenna House PDF Driver API V8.0

インターフェース説明書 2024.3.27

© Antenna House Inc. 2022-2024 All Rights Reserved.